

鶴岡工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	ソフトウェア工学
科目基礎情報					
科目番号	0083		科目区分	専門 / 必修	
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	創造工学科 (情報コース)		対象学年	3	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	安井浩之・木村誠聡・辻裕之: 基本を学ぶコンピュータ概論, オーム社				
担当教員	高橋 聡				
到達目標					
ソフトウェアの基礎について学習し, プログラムとアルゴリズム, 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア, ネットワークとセキュリティ技術について, 概要を説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。	主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を理解できている。	主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を理解できない。		
評価項目2	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを説明できる。	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを理解できている。	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを説明できない。		
評価項目3	コンパイラの役割と仕組みについて説明できる。	コンパイラの役割と仕組みについて理解できている。	コンパイラの役割と仕組みについて理解できない。		
評価項目4	コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について説明できる。	コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について理解できている。	コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について理解できない。		
評価項目5	コンピュータを扱っている際に遭遇する脅威に対する対策例について説明できる。	コンピュータを扱っている際に遭遇する脅威に対する対策例について理解できている。	コンピュータを扱っている際に遭遇する脅威に対する対策例について理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	基本的な情報技術全般の中のソフトウェアの基礎について学習する。プログラムとアルゴリズム, 基本ソフトウェアと応用ソフトウェア, ネットワークとセキュリティ技術について学習する。				
授業の進め方・方法	教科書を基にしたスライドに沿った講義形式とシラバスに沿った講義資料を基に講義を行う。 中間試験 40%, 期末試験 40%, 課題 (自学・自習) 20%で総合評価し, 50点以上を合格とする。				
注意点	この科目は学修単位科目のため, 事前・事後学習としてレポートやオンラインテストを実施します。 2年次開講のハードウェア概論と対をなす科目であることに留意する。 【オフィスアワー】 授業当日の12:00~12:45, 16:00~17:00				
事前・事後学習、オフィスアワー					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	プログラムとアルゴリズム	主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。コンパイラの役割と仕組みについて説明できる。ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。	
		2週	OS(オペレーティングシステム)とは	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを説明できる。プロセス管理やスケジューリングなどCPUの仮想化について説明できる。排他制御の基本的な考え方について説明できる。記憶管理の基本的な考え方について説明できる。	
		3週	コンピュータシステム	デュアルシステムやマルチプロセッサシステムなど、コンピュータシステムの信頼性や機能を向上させるための代表的なシステム構成について説明できる。	
		4週	組み込みシステムについて	ネットワークコンピューティングや組み込みシステムなど、実用に供せられているコンピュータシステムの利用形態について説明できる。	
		5週	コンピュータネットワーク	プロトコルの概念を説明できる。プロトコルの階層化の概念や利点を説明できる。	
		6週	インターネットとTCP/IP	インターネットの概念を説明できる。TCP/IPの4階層について、各層の役割を説明でき、各層に關係する具体的かつ標準的な規約や技術を説明できる。	
		7週	演習課題1		
		8週	中間テスト		
	2ndQ	9週	情報セキュリティ	コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について説明できる。	
		10週	情報セキュリティ	コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について説明できる。	
		11週	情報セキュリティ	コンピュータを扱っている際に遭遇する脅威に対する対策例について説明できる。	
		12週	情報セキュリティ	マルウェアやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇する代表的な脅威について説明できる。	
		13週	情報セキュリティ演習1	シナリオに基づいたゲーム形式の演習として学習し遭遇する脅威に対する対策例について説明できる。	

	14週	情報セキュリティ演習2	別シナリオに基づいたゲーム形式の演習として学習し遭遇しうる脅威に対する対策例について説明できる。
	15週	演習課題2	
	16週	期末テスト	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
専門的能力	分野別の専門工学	情報系分野	プログラミング	主要な言語処理プロセッサの種類と特徴を説明できる。	4	前1	
				ソフトウェア開発に利用する標準的なツールの種類と機能を説明できる。	4	前1	
			コンピュータシステム	ネットワークコンピューティングや組み込みシステムなど、実用に供せられているコンピュータシステムの利用形態について説明できる。	4	前4	
				デュアルシステムやマルチプロセッサシステムなど、コンピュータシステムの信頼性や機能を向上させるための代表的なシステム構成について説明できる。	4	前3	
				集中処理システムについて、それぞれの特徴と代表的な例を説明できる。	4	前3	
				分散処理システムについて、特徴と代表的な例を説明できる。	4	前3	
				システム設計には、要求される機能をハードウェアとソフトウェアでどのように実現するかなどの要求の振り分けやシステム構成の決定が含まれることを説明できる。	4	前4	
				ユーザの要求に従ってシステム設計を行うプロセスを説明することができる。	4	前4	
			システムプログラム	コンピュータシステムにおけるオペレーティングシステムの位置づけを説明できる。	4	前2	
				プロセス管理やスケジューリングなどCPUの仮想化について説明できる。	4	前2	
				排他制御の基本的な考え方について説明できる。	4	前2	
				記憶管理の基本的な考え方について説明できる。	4	前2	
				コンパイラの役割と仕組みについて説明できる。	4	前1	
			情報通信ネットワーク	プロトコルの概念を説明できる。	3	前5	
				プロトコルの階層化の概念や利点を説明できる。	3	前5	
				ローカルエリアネットワークの概念を説明できる。	3	前5	
				インターネットの概念を説明できる。	3	前6	
			その他の学習内容	TCP/IPの4階層について、各層の役割を説明でき、各層に関係する具体的かつ標準的な規約や技術を説明できる。	3	前6	
				コンピュータウイルスやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。	4	前10	
				コンピュータを扱っている際に遭遇しうる脅威に対する対策例について説明できる。	4	前11,前13,前14	
					マルウェアやフィッシングなど、コンピュータを扱っている際に遭遇しうる代表的な脅威について説明できる。	4	前11

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	80
専門的能力	20	0	0	0	0	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0